

みんなで危険ドラッグ 知ろう



危険ドラッグ刺傷事件「しえしえしえのしえー」

平成 26 年 12 月 3 日午前 7 時半ころ、世田谷区北鳥山のマンションに住む女性が、隣人の男に刃物で切りつけられるなどした事件。さらに男は、いきなり奇声をあげながら刃渡り約 12cm のナイフで女性を切りつけ始め、額・顔・両腕など 11ヶ所に全治 2 週間のケガを負わせました。その後、女性が抵抗すると男は部屋から出ていき自室に戻ったとのこと。

報を受けて、警視庁の警察官らが現場に駆けつけ事情を聞いたところ「俺が刺したー！」などと興奮した様子で話し、危険ドラッグを吸ったのか問われると、威勢よく「吸った！」と答えるなど、終始興奮していた模様。さらに警察署に連行された後の取り調べでは「しえしえしえのしえー」と供述するなど、危険ドラッグの影響か意味不明な言動が繰り返されているということです。



危険ドラッグ



元々脱法ドラッグという名称であったが、2014 年 7 月に行政によって『危険ドラッグ』という名称に変更されました。新たな呼称がしっかり浸透することで、非常に危険なものであることを認識していただくように期待しています。

法の網をくぐりぬけるために「お香」「バスソルト」「ハーブ」「アロマ」など、一見ただけでは人体摂取用と思われないよう目的を偽装して販売されています。色や形状も様々で、粉末・液体・乾燥植物など、見た目ではわからないように巧妙に作られています。デザインされたパッケージやカラフルな液体は、危険な薬物に見えないため、キレイ、カッコいいという印象を持ててしまいますが、中身は売っているほうもわからない恐ろしい薬物です。「合法」や「安全」という言葉を信用してはいけません。

「合法と言われているものは安全」「法規制されていないものだとされた」

実は、すべて「違法」です。



つかったら どうなるの？



大変危険です!!



死んでしまうことも!!

危険ドラッグの成分や含有量は商品によってまちまちであり、吐いたり、意識を失ったり、暴れたりなど、様々な健康被害が報告されています。最悪の場合は死に至ってしまうこともある危険なドラッグです。病院に救急搬送されても、成分がわからないため適切な治療ができないこともあり、大変危険です。

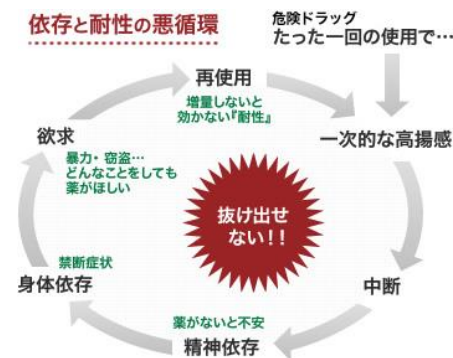


危険ドラッグは商品によって成分・含有量がまちまち。
何が起るのか予測不能!



一度の使用が人生を台無しに

いわゆるドラッグの類は、一時的にいい気分になると言われていますが、その作用が切れたときの絶望感や不安感、耐えられないほどに強いので、それから逃れるために、またドラッグに手を出してしまい（依存）、次第に自分の意志では止められなくなってしまいます。また、繰り返し使用していると、一回に使う量がどんどん増えていきます（耐性）。こうなると、薬物欲しさに暴力事件を起こしたり、窃盗などの犯罪に手を染めるなど、薬物無しでは生活できなくなります。さらに、いったん薬物依存症に陥ると、治療には長い期間が必要となります。その間に家族や友人を失ったり、若い人は将来が閉ざされ、一生を台無しにしてしまいます。



摂取による心身への影響

危険ドラッグに含まれる成分は、どれも脳に強く作用し心身にはダメージが残ります。

- ・実際に無いものが見える・聞こえる（幻覚・幻聴）
 - ・ぐったりする（疲労感・倦怠感）
 - ・集中して勉強できなくなる（学習能力の低下）
- など、様々な影響が出始めます。